

～安心して暮らせる地域社会をめざして～

SSKS じんかれんニュース

NO. 81 2026 年 2 月号



スマホの QR コードをかざすと
「じんかれんホームページ」を
読み取ることができます。



2025 年 11 月 13 日『県民の集い』in 横須賀 アンケート集計

アンケート回収枚数 95 枚	出席者数 197 名
----------------	------------

記入者年齢

20 未満 0 名	20 代 9 名	30 代 1 名	40 代 11 名	50 代 17 名	60 代 16 名	70 代 23 名	80 代 18 名
-----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

当事者年齢

20 未満 1 名	20 代 9 名	30 代 7 名	40 代 26 名	50 代 26 名	60 代 7 名	70 代 0 名	80 代 2 名
-----------	----------	----------	-----------	-----------	----------	----------	----------

立場

家族 58 名	当事者 22 名	医療・福祉関係 16 名	その他 9 名
---------	----------	--------------	---------

参加している団体名

じんかれん 34 名	つばさの会 18 名	県立保健福祉大学 21 名	アトリエ夢喰い虫 10 名
地域生活支援センター とらいむ横浜	引きこもり支援センター こねくと		

多くの方からアンケートをいただきましたが紙面の都合上、同様の感想と思われるアンケートは一部割愛させていただきました。

夏苺郁子先生の講演内容感想 自由記載

- ・私は火災で母親が焼死し、その PTSD を抱えた姪を引き取って、今二人で暮らしています。（その事の影響かその後続失を発症しました）甘すぎるかもしれませんが、嫌なことをさせず甘やかして生活しています。
- ・以前も参加した事がありますが、以前よりは、幅広く内容が聞けました。娘は病歴 30 年以上、2～3 年前電気治療によりグループホーム、B 型 A 型作業所と経験しています。これ以上薬も増やせないし、と言うことで、私もどうしていいかわからなくお願いしました。これでいいのでしょうか？
- ・すごく盛りだくさんのことをご自分の体験も入れてお話し下さってありがとうございました。先生のお話は前にもおきしたことがありましたが、今回はとても力が入っていて（いつも力が入っていらっしゃるのですが）私もつつい力んで聞いてしまいました。「人薬」子どものころ可愛がられたりする体験がとても大切なことをあらためて胸に刻みました。大人にとっても同様なとの関係が大切なこともそうです。
- ・当事者の親として夏苺先生の種々発言、説明心に浸みました。例えば①「安心できる医師の態度」～医師に言われて嬉しかったこと等～②人薬、時間薬、等の説明



- ・先生のお話は何度か受講しています。いつも患者、家族の側からのお話しに感銘します。今回の御自身のこと詳しく聞くのは始めてでした。増々先生の倫理を強く、お体大事に邁進お願いします。
- ・夏苺先生もお母様も私には考えられない壮絶な人生を歩んでいられることに改めて驚きました。良くここまで回復しましたね。本当に努力されたんですね！聞かせて頂いてありがとうございます。
- ・ありがとうございました。とても素晴らしいお話の内容でした。心から感謝します。これからの私の人生に今日のお話を参考にこれから生きていければと参考になりました。夏苺先生の御健康を心よりお祈りしています。
- ・夏苺先生の講演は今回で 4 回目となります。ご自分の体験がベースになったお話ですので、毎回感動しております。あきることはありません。毎回「力」を頂いております。
- ・自分が病気の家族と生きてきたことのお話とてもためになりました。出来ていない自分があっても自分を責めないで、その時その時一生懸命生きることが大切なのだと思った。先生の話の感想でシェア出来る時間がもう少しあると良いなと思いました。重い話だったので感想をシェアすることで心の整理をしやすくなると思うので！
- ・最新の情報も含め先生の実体験もお話いただき納得することも多く、またさらに学んでいきたいこともありました。最後の言葉はすごく分かりやすく啓発に使っていただきたいと思いました。高校では精神のことも教科書にのっているようですが、小中学校でも教科書に取り上げて欲しいです。
- ・自分のこと、家族のこと、話すのは勇気がいることだと思います。私の事と重ねて聞きました。時々、涙が出そうになりました。良いところが多すぎて、これが良かったとは言えないかもです。たくさん心に響きました。聞きに来て良かったです。ありがとうございました。
- ・病気と体当たりで生きられている感じが伝わってきました。病気と向き合うというより、人としてどう生きるかを考えさせられました。
- ・以前にうかがった講演会と同じで先生の人に対する暖かい思いやりと接し方が今の精神科として活躍して下さってる今の状況をつくり続けておられる事がよく分かりました。幅広い活躍を本当に嬉しく思ってます。科学的な病気の理由の解明が少しずつでも進んでいる事が感じられて、今後の状況に希望が感じられました。
- ・患者の立場に立って考えている。今までの精神科とは違う。カウンセリングに時間を掛けてほしい。もう少し点数にカウンセリングに反応してほしい。薬のみでは病が治らない。私の娘はアトピーで限られた薬で治療するので為になった。
- ・今回の「県民の集い」は夏苺先生が精神疾患当事者の身内に持つ家族の子供から現在までの体験から学んだ事を具体的な説明があり、非常に理解しやすいかと思います。
- ・親に対する葛藤、医師としての葛藤、当事者を経験したための葛藤、沢山のお話ありがとうございました。
- ・2015 年のアンケートも患者として(うつ病)、アンケートに答えていました。今日は幼少期の辛いお話しから、児童精神科医としてのデータや色々な研究結果等々、生の声を聞く事が出来て本当にありがとうございました。姉が統合失調症感情障害で 35 年程大変苦しんでいます、今晚「あなたのせいじゃないよ病気になったのは」と手紙を書こうと思います。ありがとうございました。
- ・私は統合失調症です。21 才で発症し、29 才で子供を産みました。娘は学生の頃不登校で現在 23 才。不登校がうそのように今では毎日休まず仕事に行ってます。病院へ連れて行かなくて良かったと思いました。私は就労移行に通所し、統合失調症も安定しており、今月からお仕事(放デイ)をする事になってます。夏苺先生のお話しとても勉強になりました。環境が私はとても大事だと思っています。

- ・精神疾患のからくりがわかって治療法も確立することに期待したい一方で自分の中身が分かってしまうことに不安もあります。家族に何から何でも責任があるというのは嫌ですね。幸、不幸という考えが方が新鮮でした。
- ・大変分りやすい言葉でお話してくださって分りやすかったです。途中で先生が言葉を詰まらせながらお話しされている姿に胸がしめつけられました。厳しい環境の中でもお母様の洋服を着て壇上に上がられる先生は優しく、とても強い方だと思いました。現実はあるに甘くないかもしれないけれど、皆が医師であり、サポーターであり、よき理解者であれたら少しでも心を寄せられたら、どれだけ心が救われるだろうと思いました。このように考えるきっかけをいただきましてありがとうございました。
- ・自分は当事者で親が精神疾患をもつ PSW です。「フツウに接してもらったことがうれしかった」ということばに深く共感しました。ありがとうございました。
- ・ずっと泣きながら聴かせていただきました。私も障害者で、母との距離をとったまま母も孤独死したので思うことが多かったです。私は重度のアルコール依存症となり入退院をくり返しました。今、断酒 6 年です。そして、精神福祉士を取り、自分の経験や入院中の仲間同士のサポート経験をもっとしたくて、今ピアサポートで働かせていただいています。今日のお話ありがたいお言葉がたくさんありました。ありがとうございました。
- ・柔らかい語り口からは想像もつかないほど苦労した過去があったことにとっても驚かされたと同時に、そのような環境の中で超難関大学に合格された強さに大きな力を頂いた講演でした。精神的に不安定になっている娘に対し、そのままの姿を認めて言葉かけに気をつけ接していきたいです。
- ・医療従事者の当たり前を当事者やご家族の当たり前にはいけないと思いました。襟を正される思いです。
- ・就労、農園で雇用を促進する立場にいますが、雇用による就労が回復の糸口になるのか、回復して就労に至るのか客観的に根拠をもって考えたいと思いました。
- ・当事者、家族、医療者のそれぞれの立場からのお話をきかせていただき、とても貴重な機会でした。私も福祉を学ぶ学生でありながら、家族に精神疾患を抱えてる人がいるのでとても参考になりました。
- ・ご自身のご経験や、失敗を包み隠さずお話しいいただき有難うございました。大変勉強になりました。精神疾患に関して浅学であることを痛感致しました。同時に非常に驚かされる研究結果や内容でより深く修めたいと感じました。
- ・涙しながら聞きました。大嫌いな母を乗り越えて、今幸せに生きていけるのは本当に幸運なことだと思いました。
- ・先生ご自身の体験に基づいた貴重なお話、学生という身でも自分の人生をこれから生きること大切にしたいと思うような強さ、価値観、言葉を一時間半という、限られた短い時間の中でも分けていただけた気がします。“人薬”自分自身も孤独の辛さを感じることもありますが、周囲とのつながりや役割を大切にしていきたいと感じさせられました。
- ・夏莉先生の素直で率直な言葉が自分の中ですごく刺さりました。「怖い」「死んでほしい」「死にたい」当事者、家族、医師としての顔があるからこそ、伝えられる言葉だと感じました。改めて言葉の大きさを考えさせられる講演でした。自分は支援者として今、大学で勉強しています。態度はもちろんそうですが、言葉の力というものをもう一度考えるきっかけにし、支援者としてだけではなく、1 人の人間として、人と向き合えるひとになりたいと思いました。
- ・自分の経験も振り返りながら、講演を聞いていました。特に当事者の立場、家族の立場として関わった体験が非常に自分にも分るようで深く心に残りました。しかし、先生は語ることで過去を清算でき、さらにいいという良いサイクルが生まれるというのを、自分でもしていたのだと気づくことができました。精神保健福祉士を目指しているので、1 人の専門職として何ができるかを大学で学びを受けて考えを深めていきたいと思いました。

・本人は本人の、家族には家族の人生があり、幸せ・不幸の感じ方は人それぞれだと実感しました。人は自分の人生にわずかでも希望を持つことができれば生きていけると思います。病気や障害は、遺伝・環境要因だけでなく、タイミングもあるという話が印象に残りました。誰しも様々なタイミングで起こる出来事によって感情や「寄り添うこと」の必要性和重要性を学びました。

・環境にどうアプローチしていくか、今後考えていきたいと思う。様々な要因が本人に関わってきて支援者側の関わりが本人の思想に介入しやすいことを実感し、実習等の実践で利用者と接していくことが少し怖くなった。自分の父親も電気療法を行った。身内からしたらやりたくないためもっと説明を分かりやすくしてほしい。本人も身内もやらせてもらえるものはなんでもやりたいと思った。

・色々な自分の正直な人生を語って、精神疾患に真正面から向きあっている。素晴らしい精神科医だと思いました。民法の親と子供は互いに助け合わないといけないという条文にしびれました。私は今てんかんとADHDを患っており、今5歳の息子はADHDと診断を受けました。先生の言う「人薬」は自分の5歳の息子かもしれません。専業主夫として、息子をマネジメントしていることに生きがいを感じています。私は今、行政書士を目指しています。民法のその法解釈「親というものの存在、家族というもの」については、もっと法解釈的に柔軟になっていく行政書士になっていきたいと思います。小説も書いています。「鏡恭二」というペンネームで検索してみてください。Chat-gptに30000円課金しています(笑)でもちゃんと通院しています。金髪で小説家で作業療法士の資格をもつ、ぶっとんだ(笑)行政書士として、色々な人の役に立っていけたらと思います。名前は黒田勇雄です。よろしくお願いいたします。

・内容が多岐にわたり濃厚ですごくためになりました。「人薬」という言葉が深く刺さりました。薬だけではなく「人薬」という「愛情」や「思いやり」も相当重要で大切であると感じました。薬も大事ですが依存しすぎると場合によっては気を付けないといけないと思います。

・夏莉先生ご自身の壮絶な経験を惜しげもなく話されたことに感動しました。夏莉先生の精神科医療に対する情熱がすごいと思いました。自分を認めてくれる人の力が、非常に大切だと言われたことが心に残ります。

・回復に貢献① ② ③ その通りであると思います。①は本当に出会いが必要。外に出る。人に会う。家にいてはダメですね！

・大変深いお話でした。まだ自分の中で消化できません。じっくりかみしめてみたいと思います。

・夏莉先生のお話を聞きたいと前々から思っていました。家族の都合や仕事の都合等で、なかなか講演会等に出席できませんでしたが、今日来ることができて良かったと思います。思い切って出席できて良かったです。

・大変良かった。誰かのために何かをしてあげる人生、病気に打ち勝つ(脳の移植があることでダメだとは言えない)孤独は薬がきかない。

・ご自身も精神疾患を発症し、孤独と絶望を味わった先生が回復され、今日のお話は力強く心にひびきました。

・とても感動いたしました。以前の講演とは違いとても努力されて研究されていたのだと思うと、とても心が動きました。素晴らしい先生だと感激いたしました。

・とても心にひびく内容の講演でした。「正論では人は動けない」「心の井戸掘り」が印象に残りました。

・いつもですが、内容が本当に心に響きます。よく理解出来ました。先生もご苦労されて今がおありなのだと思います。涙が出そうになりました。夏莉先生の診察を受けられたらどんなに幸せかと思います。(神奈川在中)

・当事者本人の経験からのお話で訴えるものが多かった。患者の悩みを身近で聞いているが、原因や病のメカニズムが分からないだけに、どのように対処したらいいか、どのように対応したらいいか分からない。

・先生の赤裸々な子ども時代からの体験を聞かせていただいて、それだけで先生の正直なお人柄、そしてそのひたむきな気持ち、この病気の解明に向けられる軌跡が理解されます。「25 年間子供たちと関わって」は、それは大きなショックであったと思いますが、人間の不思議、それこそ人間の不遜を許さない世界との遭遇です。

・とてもとても良かったです。ご自分の 3 つの立ち位置からの経験のうえに、医学的見知からのお話は貴重でした。息子の統合失調症にずっと悩み続けてきました。もっと早くこのお話を聞いていたら…と思うことです。ご多忙とは思いますがたくさんの方に伝えてください。

・色々な立場に立ってお話しされた事、ありがとうございました。病気の息子に向き合う勇気がなくなっていました、少し勇気が出てきました。

・内容が分かりやすく、希望をもてる話しでした。世間の偏見、理解、難しいです。

・病気に対する考え方、家族や周りの人との関係性を先生の経験からの話を聞かせていただき、涙を流しながら心に響きました。

・「人薬」の大切さ、心の井戸堀が印象に残りました。長い経験の中の具体的な事例で分かりやすく聞きました。

・自分の様々な、恥ずかしい、つらい、苦しい部分も赤裸々に話してくれてとても話に引きつけられました。あと自分自身も精神病で通院しており薬を飲んだりして、私たち当事者のことも少し分かる人だから、親しみを覚えました。とても良かったです。

・夏苺先生の人生は壮絶なものだったと思います。私も精神障害当事者で私の面倒をみてくれた亡き母も夏苺先生のお母さんと同じ看護師でしたが、最期は胆肝細胞癌で 85 歳で亡くなりましたが、亡くなる迄の 3 ヶ月は母の介護をしました。気丈な母でしたが癌に（末期の）なってからは我儘になり、やはり病気だからかと思いました。ですが亡くなる最期を私は独りで看取りました。夏苺先生のお母さんとの葛藤に比べるといまだ甘いと思いました。統合失調症のお母さんと同じく無視をし、拒絶した夏苺先生はうつ病にもなりながらも心が折れなかった、夏苺先生は偉大で私からみても輝いていると思います。乱文ご容赦ください。



2025 年 12 月 19 日(金)

▽明日へのことば「生きづらさが希望に」 社会福祉法人＜浦河べてるの家＞
理事長・ソーシャルワーカー 向谷地生良（むかいやち いくよし）氏
インタビュー & ネットより

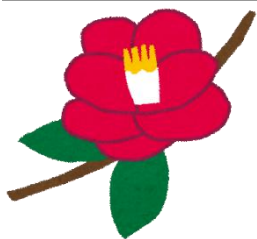
1984 年 北海道浦河町に精神障害者の活動拠点「べてるの家」を設立、2001 年にさまざまな生きづらさをかかえる人々が集まって対話する**当事者研究**が注目を集めています。あれから 25 年、氏は現在大腸がんと闘いながら、当事者研究の普及を目指して全国を廻っています。当事者研究がどのようにして生まれたか、当事者研究を通してどのように感じているかをインタビュー形式で答えられた。

当事者研究は、病気が原因で「爆発」を繰り返す青年に、向谷地さんが「一緒に研究してみない？」と提案したところから始まりました。以来、共通の悩みを抱えた人が、経験を共有しながら「自分の助け方」を見出す方法として全国で運用されてきました。困り事を研究対象として一旦自分から切り離して捉え、

家族や仲間たちと語らいながら対処法を探るというスタイルが特徴で、実験感覚でワクワク感を持って取り組めることが魅力といわれています。

例えば、こんなエピソードがあります。自罰傾向が強く発作的に顔面を叩いてしまう人が浦河にやってきました。その人は、発作のたびに病院を受診して鎮静剤を打っていました。浦河に来て間もなく発作が起きたとき、そこにいた仲間と一緒に「発作の止め方」についてワイワイと研究をはじめ、一人のメンバーがその人の脇腹をくすぐると本人が大笑いして、発作が止まりました。その人は、「今まで専門家に任せきりにしていたけれど、自分のことだったんだ」と気づいたそうです。お互いに助け合い、新しい発見をしながら、自分の苦労を自分ごととして取り戻す、そんな作用を生む試みとして、当事者研究は知られるようになりました。

実践の中でお互いの「弱さ」や「苦労」を持ち寄ることで、人と人が繋がり、その場に信頼と助け合いが生まれます。「当事者研究には『自分のことだけれども、みんなのことだ』という、共同性のような土俵をつくる力があります。対話を通じた『人づくり』であり『地域づくり』の活動の一つにもなる」と向谷地さんは考えています。



精神疾患で退院後支援計画「必要」8割 自治体調査

2025. 10. 27 神奈川新聞より、抜粋

精神疾患で自身や他人を傷つける恐れがある人を行政判断で強制入院させる措置入院を巡り、患者の退院後支援計画の作成主体となる全都道府県と政令市計 67 自治体の 8 割に当たる 56 自治体が、「計画は必要」との認識を持っていることが共同通信の調査で分かった。「適切な治療継続に有効」との理由が目立つ一方で、監視強化への懸念や病気の自覚のなさなどから患者の同意が得られず作成に至らなかった事例も確認された。

国がガイドラインで積極的な計画作成を求める中、「医療側と患者側の信頼構築が前提」と指摘する専門家もあり、自治体側からは、患者との面談を重ねられるよう手厚い人員配置などの支援を求める声が出ている。

支援計画導入は、2016 年に相模原市の知的障害者施設で起きた入所者らの殺傷事件がきっかけ。

元職員の植松聖死刑囚（35）は事件前に措置入院しており、国は再発防止策として退院後の支援強化を打ち出した。ただ監視強化との批判もあり精神保健福祉法の改正には至らず。厚生労働省が 18 年ガイドラインで退院後支援計画作成を自治体に通知した。

計画作成は自治体が支援の必要を認め、同意した患者が対象。都道府県や政令市など保健所設置自治体が主体となる。



日本年金機構において、障害年金について医師の判定結果が職員によって 不正に破棄 されていた問題が発覚しました。 2025.12月29日 神奈川新聞、共同通信ニュースより

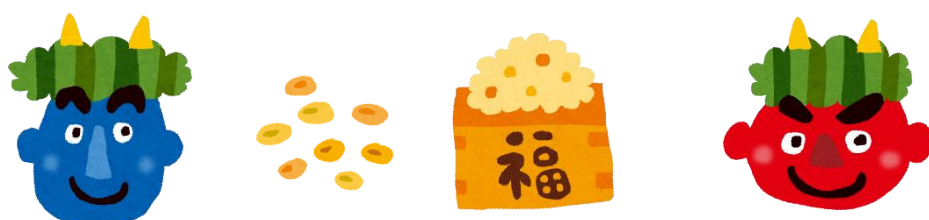
2025年12月28日、29日共同通信、神奈川新聞が報じた。日本年金機構の障害年金センターで、医師による審査結果が職員の判断で破棄され、別の医師にやり直しをさせていた。機構はこの事実を認めている。

障害年金の判定破棄問題とは日本年金機構の障害年金センターにおいて認定医が行った障害等級の判定結果を事務職員が無断で削除し、別の医師に再判定を依頼していた不正行為のことです。2025年12月28日、共同通信をはじめとする主要メディアがこの問題を一斉に報道し、社会に大きな衝撃を与えました。障害者に支給される国の障害年金について、実務を担う日本年金機構で、支給か不支給かを審査した医師の判定結果に問題があると職員が判断した場合、判定記録をひそかに破棄し、別の医師に頼んで判定をやり直していたことが28日、関係者への取材で分かった。年金機構は取材に対し、こうした取り扱いを認めた上で「件数を含め事実関係を確認中」としている。

医師の判定を否定する権限は職員にはないが、長年続いていたとみられる。判定のやり直しで年金を受け取る権利を奪われた人がいる可能性もある。職員の判断が支給の可否に影響を与えたことで、制度の信頼が揺らぎそうだ。障害年金は市区町村役場などで申請すると、全国から書類が機構の障害年金センターに送られる。判定する医師は障害の種類によって分かれ、今年1月現在で140人いる。

審査は医師が原則、単独で行う。関係者によると、医師の主観や個人差があるため、支給・不支給の判定に対し職員が「甘すぎる」「厳しすぎる」と判断した場合、記録をシュレッダーなどで廃棄。別の医師に依頼する。1人目の医師には伝えないという。廃棄の判断基準や手順を定めたマニュアルはないという。文書の保存ルールにも違反しているとみられる。記録が廃棄されているため、いつから行われていたか、年間に廃棄が何件あったかなど詳しい実態は解明できない可能性が高い。

障害年金を巡っては、不支給と判定される人が2024年度に急増。センター長が厳しい方針の人間に変わったことが、要因として指摘され、意図的に支給を絞ったのではないかと批判が出ていた。所管する厚生労働省は判定に不適切な点があったことを認め、改善策を実施している。



【編集後記】今年は今和8年、やまゆり園事件から10年、障害者や多様な人々が相互に人格と個性を尊重し、支え合いながら共に生きる社会 “ 共生社会 “ と言われて久しいが、世の中、虐待、暴力、ハラスメントと、昭和生まれとしては住みづらい世の中になったと実感する今日この頃です。また 多発する山火事、地震、寒波等自然界も様々な変化があります。当事者、家族、支援者が高齢化する中で地域で安心して暮らせる世の中になるよう、穏やかな年であることを願って頑張しましょう。備えあれば憂いなし、自分のことは自分で守りましょう。（三富）

じんかれん家族相談のご案内

【家族電話相談】

◆研修を積んだ家族相談員による電話相談

毎週 水曜日 10時～16時 予約不要
※水曜日が祝日の場合でも大丈夫です。

☎ 045-821-8796

困っていること、悩んでいることなどお話し下さい。

【面接相談】

◆精神保健福祉専門家による面接相談

毎月1回 第3火曜日 13時～16時 要予約
※第3火曜日が祝日の場合でも大丈夫です。

相談場所：相模原市南区3-3-2

ボーノ相模大野サウスモール3階

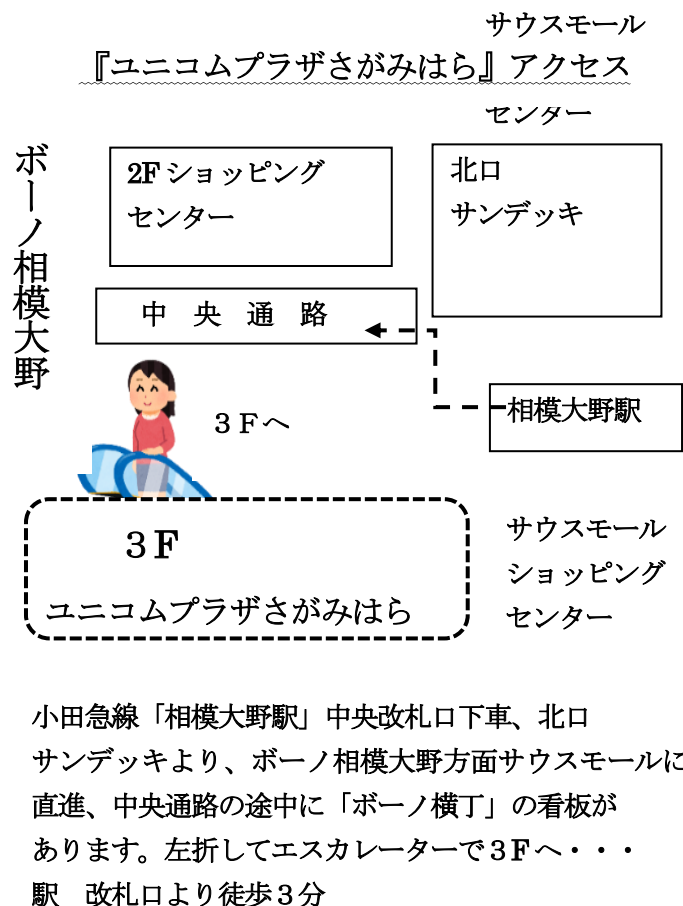
「ユニコムプラザさがみはら」

ミーティングルーム

予約電話：火・木曜日 9時～15時

☎ 045-821-8796

※相談料無料・相談内容は秘密厳守します。



発行人/ 特定非営利活動法人

障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17

ヴェルドウーラ祖師谷 102 号室

TEL 03-6277-9611 FAX 03-6277-9555

編集人/NPO 法人じんかれん

(神奈川県精神保健福祉家族会連合会)

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-2

神奈川県精神保健福祉センター内

TEL 045-821-8796

FAX 045-821-8469

E-mail: jinkaren@forest.ocn.ne.jp

URL: <https://jinkaren.net/>

定価 50 円（会員は会費に購読料が含まれています）



じんかれんニュースは、神奈川県共同募金会の助成を受けて編集・発行しています。

この機関紙を通じて精神障害保健福祉の向上に努めて参ります。

募金にご協力頂いた皆さまに感謝申し上げます。